

健康都市やまと総合計画・前期基本計画 令和6年度 施策の進行管理 (令和5年度実績について)

成果を計る主な指標の令和5年度の実績値について、令和4年度の実績値（令和4年度の実績値がない場合は直近の実績値）からの変化（向上、低下、維持）の状況を示すとともに、低下の割合が比較的大きい指標に関する考察（可能性が考えられる主な理由）をまとめています。

男女別、学年別等、対象を分けている指標については対象ごとにカウントしています。

望ましい方向への変化は「向上」、それとは逆方向への変化は「低下」としてしています。

低下の割合の大きさに上位の指標（最大3つ）について記載しています。
(指標名の前にある番号は資料2に示す指標の番号です。)

基本目標		指標数	実績値の変化の状況 (各変化の指標数)				低下の割合が比較的大きい指標に関する考察 (可能性が考えられる主な理由)
			向上	低下	維持	実績値 なし	
人の健康							
1	いつまでも 元気でいら れるまち	17	7	8	0	2	2 自ら健康づくりに取り組んでいる市民の割合 (R3年度から5年度への変化：62.7%→58.6%) 新型コロナウイルス感染症の流行から令和5年5月の感 染症法上5類への位置付けを経て、健康づくり以外への関 心が高まったため。 (以下、令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が感染 症法上5類に位置付けられたことを「新型コロナの5類移 行」という。) 3 高齢の方が地域で生き生きと活動していると思う市 民の割合 (R3年度から5年度への変化：61.8%→58.5%) コロナ禍においては遠出せず、地域内の活動が増えた が、新型コロナの5類移行等により地域外で活動する機会 が増えたため。 5 シルバー人材センター会員数(964人→924人) 定年年齢の引き上げ等の社会的な要因により入会者が 減少したため。
2	一人ひとり がささえの 手を実感で きるまち	11	5	4	1	1	21 一般就労への移行者数(55人→50人) 経済状況や景気動向の悪化の影響を受けたため。 26 国民健康保険制度における1人当たりの医療費の伸 び率(対前年度)(0.4%→3.4%) 高齢化の進展や医療の高度化により、一人当たりの医 療費が増えたため。 27 保護受給世帯のうち、働ける世帯(その他世帯)の 割合(10.6%→11.3%) 働ける世帯の数について、高齢単身世帯の減少による 相対的な増加に加え、コロナ禍における住居確保支援の 終了などにより絶対数も増加したため。
3	こどもがすく すく成長する 産み育てやす いまち	11	9	2	0	0	28 妊婦健康診査の平均受診回数(11.4回→11.3回) 流産や早産、妊娠途中での転出入に影響される値であ り、親子(母子)健康手帳交付時全員に、健康診査の目 的等を説明し、受診勧奨に努めたことから、概ね維持さ れていると捉えている。 29 4か月児健康診査の受診率(100.2%→98.6%) 転出入に影響される値であることに加え、令和4年度は 100%以上であったことから減少の幅が比較的大きくなっ たが、実質的には例年と同程度の受診率が維持されたと 捉えている。

基本目標		指標数	実績値の変化の状況 (各変化の指標数)				低下の割合が比較的大きい指標に関する考察 (可能性が考えられる主な理由)
			向上	低下	維持	実績値 なし	
4	未来に向かうこどもの 学びと歩みを支えるまち	23	14	8	1	0	40 児童・生徒の1か月の平均読書冊数 (小4～6：15.6冊→13.5冊) (中1～3：6.0冊→5.1冊) 読む量よりも内容を重視する児童生徒が増えたが、それに応えられるように書籍の鮮度を保つことが難しくなっているため。 45 小学校の給食残食率(野菜)(12%→13%) コロナ禍により、給食を通した食育の機会が減り、好き嫌いの改善が進まなかった影響が令和5年度にも及んだため。 49 いじめ、友人関係、家庭環境に係る不登校児童・生徒の改善の状況 (中学生：52.5%→46.6%) 文部科学省の不登校支援の視点に基づき、登校以外の方法による支援も行ったため。
まちの健康							
5	安全で安心して暮らせるまち	22	15	7	0	0	57 避難行動要支援者支援制度の推進メンバーを決めている自治会の割合(50.0%→31.8%) 役員交代等で取り組みが止まった自治会があったため。(実績値には含まれないものの、推進メンバーを決めずに取り組みを進める自治会もある。) 66 年間犯罪認知(発生)件数(1,217件→1,790件) 新型コロナの5類移行等により、人流の回復が一層進み、犯罪が発生する機会も増えたため。 74 火災発生率(人口1万人あたりの火災発生件数) (1.2件→2.0件) 令和4年度と比べ、放火による火災件数が増加したため。
6	環境にも人にも優しい快適な空間が整うまち	27	14	8	5	0	79 環境に配慮している人が多いと思う市民の割合 (R3年度から5年度への変化：51.3%→47.1%) イベント等の啓発の効果が薄れ、環境に配慮する意識の醸成が広がらなかったため。 87 市民農園區画数(956区画→897区画) 相続等に伴い、農地の貸借の契約が終了となり、閉園したため。 100 大和市は、公共交通機関を手軽に利用できると思う市民の割合 (R3年度から5年度への変化：81.1%→75.2%) 高齢化の進展により、公共交通の必要性が高まる一方で、燃料費の高騰や人件費増加などにより路線バスや鉄道の運賃の値上げなどが行われたため。
社会の健康							
7	豊かな心と感動が広がるまち	15	13	2	0	0	113 歴史文化施設の利用者数(42,607人→37,025人) 郷土民家園が所在する泉の森の、自然観察センターしらかしの家の利用者数も減少していることから推察されるように、令和5年2月にやまと公園がリニューアルオープンしたことなどにより市域の人流が変化したため。 117 スポーツに関わるボランティア活動を経験したことがある市民割合 (R3年度から5年度への変化：16.0%→11.2%) (令和5年度の実績値は令和5年4月実施のアンケート結果であることを踏まえて考察) 令和4年度にコロナ禍による行動制限が緩和され、「する」「みる」スポーツの再開は認知されたが、「ささえる」スポーツへの参加に関する市民のモチベーションの回復が遅れたため。

基本目標		指標数	実績値の変化の状況 (各変化の指標数)				低下の割合が比較的大きい指標に関する考察 (可能性が考えられる主な理由)
			向上	低下	維持	実績値 なし	
8	市民の活力 があふれる まち	24	12	9	0	3	132 援農サポーターの登録者数（79人→68人） 援農サポーターに関する普及啓発は行ったが、農業への興味を新たに喚起することにはつながらなかったため。
							140 市民活動センター利用登録団体数 （168団体→142団体） 大きな音を出せない市民活動センター（ベテルギウス）の制約を受け、登録を継続しない団体が比較的多かったため。
							141 市からのボランティア情報の提供者数 （355人→227人） 令和4年度に「出張！ボランティア総合案内所」を併せて実施していたイベントが令和5年度に見直されたことに伴い実施回数が減ったため。